since1995.12
2023 年 2 月発行

社会福祉法人ＳＫＹかわさき
〒214-0014 川崎市多摩区登戸 2341-1
TEL：044-299-6526
FAX：044-922-6628
HP：http://www.sky1995.com/

SKYかわさき通信

第 48 号

「できない理由じゃなくて、できる方法を考える」

SKY かわさき理事・紙ひこうき きたのば所長　篠原　宏江

この度、精神保健福祉ジャーナル『響き合う街で 103 号（やどかり出版）』に、ゆりあすの鶴田さんと共同執筆し、寄稿させていただいた。とても貴重な機会をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今号は精神医療における身体拘束について様々な立場の方が寄稿しており、多くの方に手に取っていただき、「人の自由を奪うこと」がいかに大きな問題であるか、共に考え語り合う機会の一助になれば幸いです。

とは言え、7 月に「身体拘束の現状を変えるヒント」というテーマで、スウェーデンの権利擁護システムについて執筆の打診があった時は、責任を果たせるだろうかと悩む気持ちが大きかった。でも断りたくはなかったし、身体拘束、権利擁護というキーワードから紙面に登場する A さんのことが真っ先に浮かんだ。これは引き受けなくちゃいけない！という使命感が勝ったものの一人では心細かったので、ピア活動地域交流会にスウェーデンの方たちも来てくれたし、ゆりあすの実践も交えて一緒に書きましょうよと鶴田さんを誘った。“熱い”夏になりそうです、とメールが返ってきた。

12 月初旬、ようやく完成版が手元に届いた。第 1 部に「身体拘束が人生に及ぼすもの」というテーマで、拘束を受けたことのある当事者の体験談が載っている。「具合が悪くなって自分でも感情や行動がコントロールできなくなってしまったら強制的な入院も仕方ない」という体験を聞いたこともあるが、この記事からは、一時的でも自由を奪われ屈辱を味わい、心に傷を負った方たちの言葉の重みを痛感した。

先日、ある歯科医院の特集を見た。休診日に障害のある子供たちの歯科診療をおこなう歯科医の特集だった。飛んだり跳ねたり、泣きわめいて抵抗したり脱走したりする子供たちの映像がそこにあった。通常は、羽交い絞めにしたり身体抑制や（全身）麻酔を使っての治療が多いというが、この先生は子供の心の準備ができるまで待ち、最後まで治療を諦めない。子供たちには、「終わるまで帰れないんだよと諦めてもらう」そうだ。また来週！と言って見送りながら、母親には子をめいっぱい褒めるようにと声をかける。母親は、「この先生は大丈夫」という信頼関係が生まれると言っていた。信頼関係は、対話と交渉のくり返しで深まるものだろう。思い通りにならないからといって、自由を奪ったり制限したり抑え込んだりするほど、関係は悪くなる。みんな分かっているはずなのに。

日本は精神科病院がなくならないから変わらないと言われがちだが、実は閉鎖病棟がなかったり拘束をおこなわない病院も存在する。世の中は目まぐるしく変化している。日常に取り残されないよう、そして先のことを想像しながら、私たちが発信すべきことは何か。できない理由を考えるのではなく、できる方法を考えていきたい。皆さんと共に悩みながら。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

《法人本部からのお知らせ》

啓発活動　当法人が制作に協力し、令和３年７月に社会福祉法人設立記念映画会でお披露目した「不安の正体～精神障害者グループホームと地域～」は、その後首都圏を中心に上映が続いている。上映会後には視聴者との意見交換会及びシンポジウムが行われ、発題者として招かれ登壇する機会を数回得た。令和４年７月から11 月までの間には、川崎市社会福祉施設事業協会施設長会、療育ネットワーク川崎サポートセンターロンド、横浜市都筑区上映会、川崎市幸区精神保健福祉連絡会などである。参加者からは活発な意見や質問をいただき、アンケートでは貴重な声を多く寄せていただいた。11 月 29 日には第 33 回かながわ国際人権集会シンポジウム「人権が尊重される社会づくりを」が開催され、およそ 260 名の県内自治体職員・教職員とともに「精神障害者が地域で暮らす意義と施設コンフリクトを考える」時間を共有することができた。

この夏、ジュネーブで行われた国連障害者権利委員会の対日審査では、「精神科病院の強制入院は障害に基づく差別であり、自由のはく奪を認めるすべての法的規定の廃止を求める。施設収容を廃止し、その予算を地域社会で他の人々と対等に自立して生活するための支援に充てる。不当に長い入院は人権侵害。インフォームドコンセントを徹底し、地域の中で暮らしながら必要な治療を受けられる体制を構築する。障害を持つ人が、どこで、誰と暮らすのか、自ら選べるようにする。当事者団体とともに協議し、社会的入院から地域移行を迅速に推進すること。期限を定め、人的、技術的、財政的資源を投入すること」が要請されている。

施設コンフリクトに見られるように、地域から精神障害者を排除する構造を作り出した我が国の隔離収容政策は一日も早く改められなければならない。精神障害者の人権が尊重される社会づくりに SKY かわさきも微力ながら寄与していきたいと思う。令和５年１月に来日する国連人権委員会特別報告者ダニウス・プラス氏が SKY かわさきに立ち寄って下さることになった。英語字幕付き「不安の正体」を見ていただこうと急遽準備を始めたところである。　　記：三橋良子

令和４年度新人職員研修

～プログラム～
① 参加者による事業所紹介
② 当事者による体験談
③ 中堅職員の話
④ リレートーク

日時：令和４年６月 22 日
場所：北リハ３階会議室　　参加者：８名（新人職員４名）

昨年度に続き社会福祉法人となり二回目となる新人職員研修がおこなわれました。今年度は参加者自ら事業所を紹介することで新入職ならではの視点や気づきがあり、より主体的に研修参加ができたのではないかと思われます。当事者による体験談では話してみようと思ったきっかけや、気持ちの変化など様々な質問が飛び交っていました。最後のリレートークでは皆さんの思いや夢を聞くことができてこれからの法人の発展に明るい兆しが見えた楽しいひと時でした。

～参加者から～

体験談を通して職員との信頼関係が伝わって来ました

しっかりしている様に見える先輩職員の失敗談に驚くと同時にこれからの励みになりました

ご寄附御礼（令和4年6月1日～令和4年11月30日）

○谷　みどり 様　○きしろメンタルクリニック 様　○ゆきわり草 様　○金森　忠一 様
○玉井　信重 様　○福岡　貴生 様 ○山田　洋子 様 ○百合丘メンタルクリニック 様
○湯浅　円香 様　○葉月社会保険労務士事務所 様 ○ケアセンター介護福祉士会　様
○税理士法人八木会計　様

（申込書・払込取扱票で**「掲載可」にチェックのある方のみ掲載**させていただいております）

その他24名　合計37名の方から、計156，000円のご寄附をいただきました。

お志は大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。

画竜点睛

物事を成し遂げるために重要な最後の仕上げという意味のこと。

評議員の皆様のひとことコーナー　Vol.3

評議員　療育ねっとわーく川崎　谷みどり

療育ねっとわーく川崎の谷です。療育ねっとわーく川崎を立ち上げたのは 22 年前。何もわからず、ただただ当事者や家族から求められることをやっていこうと、仲間とはじめた NPO です。その後、自立支援法をはじめとして、国の施策や法律が変わるたびに翻弄されることもありました。そんな中、ずっと願い続けてきたのは、医療的ケアのある人への支援です。

医療技術の進歩で、重い障害をもっていても生を受け、成長することが保障されるようになりました。以前なら医療ケアがあるため病院から出られなかった子どもたちが、家族とともに暮らせるようになりました。最近では、3 ヶ月の赤ちゃんが人工呼吸器を装着して、自宅に帰ることをお手伝いしたこともあります。呼吸器をつなぐフォルダはキリンの図柄でした。

家にいて 2 歳になれば、お母さんは、幼稚園や保育園に通わせたいと思われます。6 歳になれば学校に、大人になれば、社会に出てほしい。至極当然のことだと思います。

私は、法人を立ち上げる前は、養護学校の教員でした。当時は、医療的ケアがあると、障害のある子どもたちが通う学校なのに、家族が付き添うことが入学の前提になっていました。あるお母さんから、「素人の私ができるのに、なぜ先生ができないのですか」といわれ、目が覚めました。

2012 年に法律が変わり、医療職でなくとも、研修を受ければ一定の医療的ケアができるようになりました。そして、昨年は、医療的ケア児支援法ができました。養護学校（特別支援校）では、家族の付き添いはなくなりつつあります。

それでも、本人に出会うより先に、医療的ケアがあるということで、受け入れられない状況は続いています。出会ってさえもらえれば、笑ったり泣いたり怒ったり、決して特別ではない人たちだとわかってもらえるのですが。

地域活動支援センター きたのば

川崎市多摩区登戸 2341-1
044-922-6628
イラスト：くうちゃん

Follow me

Instagram
KITANOVASHOP

ワークショップで踊ったダンスも公開中！

2022年10月5日・11月9日・12月21日
「西井さんと音で遊ぼう」開催

“きたのば”のとってもかわいい自主製品作り（手芸）は集中力が必要で会話も少なくなりがち。また、コロナのソーシャルディスタンスも加わり、メンバー同士の交流が減っていた気がするここ最近…

もっと互いを知る機会がもてないか、自分のことを伝えると自分も周りも楽しい気分になれることがある。そんな実感をもてる機会が欲しい！と思っていました。

そんな中、アーティストがワークショップをして下さるという「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター ワークショップ実施事業」という企画を知り、応募すると…県内で２カ所しか採択されないにも関わらず、見事“きたのば“が当選！！とっても嬉しかった。

作曲家の西井夕紀子さんが醸し出す心地よい雰囲気のなか、緊張しながら楽器にふれたり、唄いながら自己紹介をしたり、踊り始めたり…ワークショップには、延べ19名のメンバーが参加し、にぎやかな”きたのば”になりました♪

音を楽しむことはもちろん、作業だけでは知り得なかったお互いの魅力に気づけた時間になりました。

製品作り用のビーズ・フェルト寄付を引き続き大募集中

ご寄付を頂いた皆様ありがとうございます。大切に活用させていただきます。
自宅に眠っているビーズとフェルトがありましたら、“きたのば“までご連絡ください！

Oちゃん：音で自由に遊べて楽しかったです。

シマエナガ chan：名前の知らない初めての色んな楽器を試してみることができた。楽器同士で不思議なセッション。私には少し難しいけど、貴重な経験ができた。

ねじねじ星人：自分の想定していた音楽ワークショップと違った。メロディーをひいたりするのかと思っていた。でも、面白かった。

2022年12月13日(火)
「桜美林大学　講義の講師に！」

桜美林大学で精神保健福祉を学ぶ1年生に「地域活動支援センターと精神保健福祉士の役割」についてお話してきました。「先生」と学生に紹介されどぎまぎしましたが、メンバー２名の体験談が印象深かったとの感想が多く濃密な時間となりました。終了後、体験談を語った井関さんに講義の様子を報告してもらうと「次は私が行きたい！」と他のメンバーからも頼もしい声が聞かれました。来年も行きたいな～♡

井関久美：緊張していたけど、学生さんが一生懸命に話をきいてくれて良かった。

鷲尾みか：みなさん温かな雰囲気で話を聞いて下さって話がしやすかったです。また呼んでくだされば嬉しいです。

コロナ禍でイベントがなくなり販売の機会が失われましたが、今年は夏から秋にかけて地域のお祭りなどが復活しました。販売するものがない⁉とあわてましたが、お陰さまで多くの方に”きたのば”の製品を手に取っていただき知名度もアップしたような手ごたえを感じました。ありがとうございます。

出店：パサージュたま７回・ふれあいまつり・民間園通り商店街夏祭り・KAWASAKI産 SUN フェスティバル・プラザマルシェ・合同販売会・ハロウィンだよ！登栄会・北リハフェスタ・ふれあいバザール・手作りマーケット・食の祭典２日間・SORA市・クリスマス！KAWASAKI産 SUN フェスティバル

委託販売：多摩区ソーシャルデザインセンター（偶数月）・マミーポポ・写真のマミ（2022年10月閉店）・があでん・ららら

2022年4月～12月
20箇所に出店♪
Special Thanks！

今年も頑張ります！

さくらスタジオ

～11月に行った咲classについてご紹介！～

咲classとは… 利用者が知りたいことや伝えたいことなどテーマを決め、利用者自身が講師になること、外部の講師に教えてもらうことで学習や気づきのヒントを得るプログラムです。

今回は「認知行動療法について知りたい！」という利用者の声から、武田病院在職中に、デイケアで復職支援に携わっていた三村さんにお越しいただき、講義をお願いしました。貴重な機会に7名の利用者が参加し、さくらスタジオでの過ごし方にも意味があることを再確認できる良い時間を過ごしました。

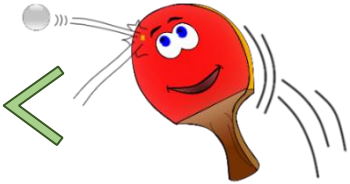
☆メンバーの声☆

R：前から気になっていたので、話が聞けてよかったです。

渡辺：質問にも詳しく教えてくれて為になる講義でした。ありがとうございました。

櫻井：知らないことが知れてよかったです。

就労継続支援 B 型事業所 はっぴわーく



～卓球レク開催～

コロナ終息は見えず、慣れたくはないですがマスク生活にも慣れましたね。はっぴわーくはここ 3 年程、計画したレクが実施出来ずにいました・・・。今現在（R5 年 1 月）は行動制限の緩和にもだいぶ慣れ、人の動きも多くなっていますが、10 月に久しぶりの活動的なレクで盛り上がった様子をお伝えしたいと思います！日々お仕事に一生懸命頑張っているはっぴメンバーさんですが、当日は古いメンバー、新しいメンバーと顔ぶれも様々で何だか嬉しくなりました！　今年も、仕事に余暇に充実して過ごしていきたいですね。

～引率職員より、当日の様子～

久しぶりのレクなので勝敗はつけずにワイワイとやろうと思っていましが参加メンバー全員が「勝敗をつけたい」と意見一致のもと 2 グループに分かれ、予選を行い、試合を進めました！

皆さんの真剣勝負は見応えがあり、白熱しました！

結果・・・1 位は 70 代男性でしたー！！！

（経験者とはいえ、すごすぎです）

久しぶりに体を動かして疲れたけど楽しかった！

審判は難しかった

1 時間半短いと思ったが丁度良く楽しめた！

地域相談支援センターひまわり

～災害時個別避難計画の作成にあたって～

令和元年 10 月に発生した台風 19 号により、甚大な被害が発生したことを受け、川崎市においても令和３年 12 月より、災害が発生または発生するおそれがある場合に避難行動に支援が必要な方に対し、相談支援専門員等が「災害時個別避難計画」の作成支援を行っていくことになりました。作成にあたっては、お住まいの区のハザードマップを確認することから始まるのですが、この支援計画では、「洪水ハザードマップ」と「土砂災害ハザードマップ」を見ながら、風水害と地震の時の避難方法について確認していきます。最近では、物件を借りる際の契約時にも、不動産屋さんがこれらを使用して説明されることも増えてきました。もし、見たことがないという方は、ぜひこの機会にそれぞれのハザードマップを確認し災害のリスクがあるかないか、知っておくことをおすすめしたいと思います。（市のホームページや、区役所でも配布されています）

避難とは、「難」を「避」けること、こうした災害の想定区域に入っていなくても、行政から避難勧告が発令された場合は、できるだけ「警戒レベル３」（５段階ありますが昨年からレベル４の避難指示までに必ず避難するようになっています）のタイミングで避難を開始できるよう準備を整え、普段からどう行動するか考えておきましょう。

■ホームSKYの自立生活移行支援■

ホーム SKY では、2014 年から 3 年通過型の入居契約を取り入れてきました。それにより 2017 年頃より単身アパート生活へ移行される方が増えています。ここ 3 年間を振り返ると、毎年 4 名ずつ単身アパート生活へ移行されています。そして 2022 年 1 月からは、一人暮らしを応援する自立生活援助「アイビー」の事業をスタートさせました。

現在、入居者の約 1/3 が 3 年期限の入居契約となっています。自立生活へ移行する際には、ご本人との面談、関係者を含めたカンファレンス、引っ越しのためのアパート探し、保証会社との契約や緊急連絡先の確保、引っ越しの段取りや荷造り等の厚い関わりが必要です。また、新しい入居者を受け入れるまでには、調整等に 3～4 ヶ月の時間が必要となります。その間には空室の家賃、月額報酬の補填などの費用もかかり、自立生活移行を進めていく上での負担となっています。

精神科病院に入院している方はもちろんのこと、地域で暮らす方のグループホーム利用希望も多くあります。今後も安定した自立生活移行が行えるよう、また、障がいのある方が、どこで誰と暮らすのか自ら選べるよう、要望書等を通じて、行政へ手厚い支援の必要性や理解を伝えていきたいと考えています。

北部地域生活支援センター ゆりあす

噂の活動紹介！「ゴーヤ隊」

今年の梅雨頃「区役所でゴーヤの種をもらったんだけど、ゆりあすに寄付したい」メンバーさんからのそんな一言からこの活動は始まりました。ゴーヤを育てたい、収穫して食べたい、夏に向けてグリーンカーテンがほしいなど、参加理由は様々でしたが、ゴーヤに興味関心がある方が集い、プログラムでもないクラブ活動でもない有志活動を設立。その名も“ゴーヤ隊”。場所はゆりあすのバルコニー、土を入れるスコップは手作りでプランターと土はがあでん・ららにご協力頂き始動。開始当初は、本当に種から育つのか、育てるのには時期が遅いんじゃないかなど戸惑いもありましたが、種から丁寧に丁寧に愛情を込めて育てた結果、なんと立派なゴーヤをたくさん収穫することに成功しました。その後は、お待ちかねの試食会、調理もみんなで行い美味しくいただくことが出来ました。
そんなゴーヤの歓喜に沸いた感動の瞬間を紹介させていただきます。

～メンバーさんの感想～

・朝の水やりはとても大変でしたが、出来上がった**ゴーヤ**を食べた時は、**とても達成感**がありました。
・黒ポットに種を植え、毎日**水やりをして大変さ**があったので、実際に実るか心配だった。以前ゴーヤを育てたことがあったんですが、失敗に終わったので、再度挑戦をして実ったのでうれしかったです。
・種を植える時が難しかった。ゴーヤを採る時が疲れた。**おいしくてお腹がいっぱい**になりました。
・見事実りました。
・ゴーヤってこんなに**デカいんだな**。思った以上に成長した。
・**水やり**は結構大変なんだなと思った。

紙ひこうき

令和５年　２月号

地域活動支援センター　紙ひこうき
〒214-0014　多摩区登戸2341－1
TEL／FAX　044－922－3686

紙ひこうきとは…　精神障がいのある方の地域生活を支援する、地域活動支援センターです。
自分のペースで来られる憩いの場、自分たちで創り上げる自分らしさの場として活動しています。

ウォーキングフットボール大会で紙ひこうきチームが 優勝 しました！！

11/24（木）援護会主催の第３回ウォーキングフットボール大会がとどろきアリーナで行われ、初出場でなんと初優勝という嬉しい出来事がありました。走ってはいけないサッカーは皆初めての経験でしたが、楽しみつつ無我夢中になりながら、いいチームワークで怪我無く笑顔で参加できたことが何よりもよい思い出となった１日でした。翌日の筋肉痛が半端なかったことは言うまでもありません…

みんなよく頑張りました！いい笑顔です！

○ギターサークル＆音楽発表会

8/20(土)「ギターサークル」に参加しているメンバーが主体となって「夏の音楽発表会」が開催されました。演奏中の映像を撮り忘れるなど一部アクシデントは起きましたが、皆さんの熱のこもった歌唱や演奏に今年も大いに盛り上がりました。12月にも「冬の音楽発表会」が予定されており、ただいま猛練習中です。今度は撮影ミスなしでお願い！（Mr.ビン底）

○池原弁護士を囲んで

12/22（木）『今の暮らし、満足してますか？』というテーマで日本の精神医療や障害のある人たちの暮らし、辛く悲しかったできごとやそれぞれの夢について体験を語り合い、池原先生からは海外の取組みなどを学びました。結論！！！解決困難なことでも一緒に考えるチームがあるとよいね、一人の夢をみんなで叶えよう、頑張りが報われる社会になるといいな、そんなことを共有しました。

○多摩区家族・患者教室に参加しました。

11/29（火）太田さん、橋本さんと共に講演してきました。体験発表に初めて参加された橋本さんより。『初めての体験談で原稿を書くのにかなり調子が悪くなりました。そして紙ひこうきヨガの先生に、“記憶は新しくすりこむことにより変わる”と教わりました。その時はそう思ったけど、体験談で話した家族の事も、今は、みんなもそれぞれに大変だったので私だけが心の病で苦しんでいたわけじゃないと付け足したいです。むしろ家族には感謝しています。だから、ご家族の皆様もあきらめないで下さい。』太田さんからも感想をいただいています。『これまでに何回か自分の体験をお話させて頂いておりましたが、今回は特に落ち着いた気持ちで自分の足取りを振り返る事が出来たと思っています。支えてくださった方々に感謝しつつ、次の歩みを決めるタイミングにきている事にも気が付きました。』

家族会の方の「支援者でもある家族」という言葉に衝撃を受けました。家族の声や思いにも耳を傾けないといけませんね。“望まない一人ぼっち状態”にある家族や当事者の方たちに、町には支援者だけでなく仲間もいることや私たちの活動を伝えていくにはどうしたらよいか。みんなで考えていきませんか。（篠原）

就労継続支援Ｂ型事業所
があでん・ららら

今回は、ハーブティーの納品の流れまでを製品を作っているメンバーと一緒にご紹介します!

畑で収穫したレモングラスの選別・カット作業

選別は地味な作業ですが、集中力が必要になります。（伊藤）

シールを袋に貼る作業

正しい位置に製品シールを貼るのがいつも大変です。（伊藤）

箱折り作業

単調な作業ですが、マイペースで出来るので楽しいです。終わった後には充足感があります。（トミタ）

お茶詰め作業

私は 10 年くらいこの作業をやっていますが、いつも茶葉が手に付くので入れるときは大変です。1 回の作業で 30 個のレモングラスほうじ茶が出来ます。（横内）

製品を箱に入れて発送

今月も必要な数が出来て良かった。また、来月も頑張って作るぞ！

完成品がコチラです！

●CANDY ACTION での活用例

ご縁があってお会いをさせていただく方や、関わりのある方へのお手土産としてハーブティーをお渡しさせていただいています。障がい者就労支援の応援をしたいという思いからお声がけをさせていただきました。私たちのお土産によって、ささやかですが、『があでん・ららら』様の広報活動にもつながれば本望です。

●CANDY ACTION とは？

CANDY ACTION は、『社会貢献をあたりまえに！』をビジョンに、社会貢献に興味のある若者と、実際に取り組まれている団体を応援しています。社会貢献活動の無料プラットフォーム『CANDY ACTION』を運営し、ボランティアイベントと若者のマッチングサービスを提供しています。

みんなの広場

SKY メンバーの投稿コーナー

SKY メンバーの日常を切り取ったホットな投稿をお送りする「みんなの広場」。
今回も素敵な作品がそろいました！
お楽しみください！

「天秤座ベータ星」
唯一、緑色に見える星
ホームＳＫＹ　文枝

紙ひこうき　仔猫乃靴下

あなたは特別な存在

たとえ何度、失敗してもいいのです。
傷ついた時には泣いてもいい。
落ち込んだ時には、そっと休めばいい。

ですが、決して諦めないで下さい。
あなたの事を応援してくれる人がいる。
この世界であなたは一人だけです。
他に代わりなんていません。

いつも、笑顔で素敵な
あなたでいて下さいね。

ホームSKY　比嘉　翼

「ミニプリンセス」ホームＳＫＹ　きょうこ

わたぼうし

わたぼうし

サンタクロース

になーれ！

はい。

サンタクロースのできあがりです。

「白い恋人」があでんららら　ペガサス

「ぶどうなりのあにまるぽっぷ」きたのば ねじねじ星人

「鎌倉殿の１３人」（ＮＨＫ大河ドラマ第６１作）がおわった。権力の座を維持するためつぎつぎと政敵の命をうばった北条義時（小栗旬）も最期は妻のえ（菊地凛子）に毒をもられ姉の政子（小池栄子）に薬を床にこぼされて孤独に死んでいった。「夏草や兵（つわもの）どもが夢の跡」（松尾芭蕉）。「君死にたまふことなかれ」（与謝野晶子）。私は、このドラマを途中の回から見だしたが、これを見て「いくさのない世の中」がくることを願わずにはいられなかった。「戦争も軍隊もない世界」を私たちの力でつくりだそう。「そのとき、あなたは何をしていたのか」。人からそういわれないように行動しよう。

ホームＳＫＹ 関口 実

（２０２２年１２月２４日）

傷ついた翼

海を見下ろし　千里の道も見下ろし
風に乗って優雅に飛んでいた

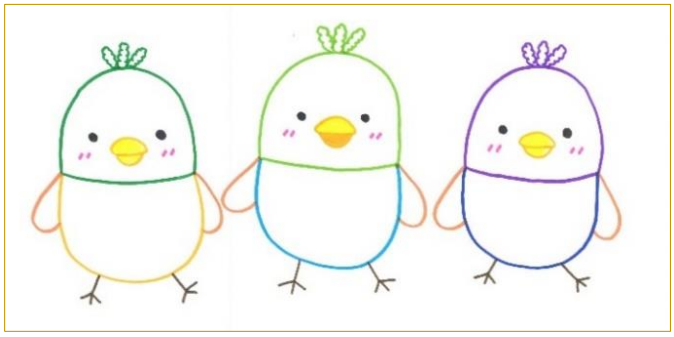
嵐に打たれて傷ついた翼
飛ぶことも出来なくなって
ひと枝に身を寄せる傷ついた翼

流れる涙も拭えないほど私は疲れていた
傷ついた翼を休めるため生きていく
未来や希望に瞼を伏せるしか手立てがなく

もう一度だけでいいから夢を見させて
傷ついた翼は元には戻れないけど
ひと枝ひと枝に飛び移り
明日への希望を諦められない

紙ひこうき
夢路

「うさぎ」があでんららら Rika



「とりたち」　きたのば かおり

「サンタ」
きたのば R

令和4年度　第1回 SKY 研修を行いました！

令和 4 年 11 月 30 日 15:00-17:00
北部リハビリテーション会議室にて

今回は、「家族や地域の埋もれた困りごとをキャッチし、開かれた地域づくりについて探る～孤立させない仕組みを考える～」というテーマをもとに、「一般社団法人 Omoshiro」の勝呂ちひろ氏を講師にお招きし、ヤングケアラー支援（親子まるっと伴走支援）を始めた経緯や地域に対して福祉を身近に感じてもらうためのアプローチ、ソ－シャルワーカーとしての視点を学びつつ家族や当事者だけが孤立しない、抱え込まないために何ができるか、日頃の業務を振り返りながら考えられる機会として講義とワークを行いました。

勝呂さんにはこんなに盛り沢山の内容なのに、全て網羅してお話しくださったうえに、「〇〇法人の職員ではなく、一人のソーシャルワーカー」として勝負する」ご自身で事業を起こし、ご自身の言葉で表現してくださった姿に、参加者は多くの刺激をいただきました。今後も、地域に求められる法人（一人のソーシャルワーカー）でありたいと感じる研修になりました。（研修委員会）

SKY かわさき普及啓発事業からのご案内

「居場所のちから」に触れる

日時：2023 年 2 月 26 日（日）
13：00～16：30（受付 12：30～）
会場：北部リハビリテーションセンター会議室

西野博之さん

86 年から学校に行きづらい子どもたちの居場所づくりに関わり、91 年川崎市高津区に「フリースペースたまりば」を開設。川崎市子ども権利条例の制定や条例制定を具現化した川崎市子ども夢パークの開設などに尽力されている。

「川崎市子ども夢パーク」が舞台となった映画『ゆめパのじかん』の上映＆認定 NPO 法人フリースペースたまりば 理事長西野博之さんとのトークセッションを通じて、子どもにとっても大人にとっても、「より生きやすい社会」について一緒に考える機会になればと思います。

参加費無料、事前申込制

定員 80 名(申込締切り：2 月 17 日(金) 先着順)

→ＱＲコードにてお申込みください

お問合せ先：北部地域生活支援センターゆりあす（TEL：044-281-6641）

SKYtter　～SKY 職員のつぶやき～　vol.18

丹頂鶴に会いに北海道へ
(2017)

故）星野道夫さんの世界に触れて・・・。

コロナからか年のせいか、好きだった散策やちょっとした旅行など双眼鏡を持って出かけることが億劫になり自然と触れ合う機会が減ってしまったこの頃、先日テレビ番組で「星野道夫がみたトナカイ大集結」をみた。今もアラスカの大平原に十万頭以上のトナカイ（カリブー）が夏に大集結し、大移動する映像や写真は圧巻で、地球温暖化や野生動物絶滅の悲しいニュースばかりの今、こんな自然が地球に残されていることにとても心を揺さぶられた。そして都内で開催中の星野さんの写真展に行って、星野さんのテーマが野生動物だけでなく自然を慈しみながら暮らす人々の生活にもあったことを知った。今は、購入した写真集をエッセイとともに眺め、この大自然が変わらぬ事を祈りながら、少しだけ心落ち着くひとときを過ごしている。経済成長がないと生活が安定しないとテレビでコメンテーターが言う。本当に経済成長で人や福祉は豊かになるのだろうか。また、少し外の空気を吸いに出かけようと思う。FROM:ホーム SKY 青野さん

次回のつぶやきは？　があでんららら 金森さん

■■編集後記■■　先日 4 年経った自転車の点検をしてもらいました。その後乗り心地は抜群です！（あ）